

こんにちは鳥栖！～市内に住む外国人エッセイ～ vol.60

私は中国・黒龍江省鶏西市出身です。中国の北東部に位置し、冬はとても寒く、雪が多い地域です。寒さは厳しいですが、人々は家族との時間を大切にし、温かい人間関係がある土地です。

私の故郷で最も有名なお祭りは『春節（旧正月）』です。この時期になると、多くの人が帰省し、家族や親戚と集まって新年を祝います。街中が赤い飾りで彩られ、にぎやかな雰囲気になります。食べ物では、餃子をはじめとする東北地方の家庭料理が有名で、寒い冬に温かい料理を囲んで過ごすのが伝統です。

現在は、日本の工場で働いています。仕事をしながら、日本語や日本の生活習慣を



国籍 中国
ソン・ゼンユウ
名前 善友
年齢 38歳
趣味 本を読むこと

■やさしい日本語クイズ答え
(18ページ) ①病院の質問に答える紙②寝てください③少し熱がある④病気やけがをした人を運ぶ車



▲中国の春節

日々学んでいます。日本に来た理由は、日本の文化に興味を持ち、実際に日本で生活しながら学びたいと思ったからです。鳥栖は自然がありながらも生活しやすく、人が親切なまことに感じています。また、日本は時間や約束を大切にするところ、安全で安心して暮らせるところが大きな長所だと思います。

将来は、日本語やこれまで学んできた知識をさらに深め、より専門性のある仕事に挑戦したいと考えています。これからも学び続けながら、鳥栖での生活を大切にしたいと思います。

天正7年（1579年）1月、筑紫広門は岩屋城（太宰府市）への攻撃を皮切りに大友家への反抗を開始します。

大友家に反抗するのは広門の他、龍造寺隆信、秋月種実に加え、宗像氏や糸島の原田氏も加わり、各方面から大友領へ攻め込みます。

筑紫家も今の那珂川市一帯を占領し、太宰府へ攻め込みます。江戸時代に書かれた記録では、筑紫軍は行商や山伏に扮して太宰府近郊の城へ接近し攻撃するも、一帯を守る高橋紹運の巧みな采配により幾度も失敗に終わつたと記されています。

天正12年（1584年）3月、龍造寺隆信が沖田駿（島原市）における島津家

との戦いで討ち取られてしまします。カリスマ当主を失つた龍造寺家は急速に勢いを失いました。これを機に大友家は反撃を開始します。立花道雪と高橋紹運の名将2人を主力として、筑

後地方の奪還に乗り出します。筑後川を渡つた大友軍は、瞬く間に久留米市東部と八女市一帯を奪還します。そして次の攻略目標と

して、久留米城・柳川城などを定めます。これらの拠点を失うと、筑紫家と龍造寺家は、それぞれ筑後地方に入ることすら厳しくなります。窮地に陥つた筑紫・龍

「鳥栖市誌」発売中

「鳥栖市誌」は、市教育委員会生涯学習課、油屋本店、古賀書店などで取り扱っています。詳しくは、同課（0942-85-3695）へ。



▲岩屋城から天拝山を望む



▲岩屋城跡（太宰府市）

津義弘の元を訪れ、大友家の討伐を懇願した」と当時の島津家臣の日記に記されています。

（鳥栖市誌第3巻第3章より）

とす新風土記 「鳥栖市誌」を読む 第123回 「勝尾城を知る」第19話 〈反逆の広門〉